

消費者との提携活動を礎にした持続可能な農業と美味しい米づくりの実践
～土を耕し、心を耕す。高島町有機農業50年の足跡～

農事組合法人 上和田有機米生産組合
代表理事組合長 渡部 京一（高島町）

1 受賞者の概要

当組合は、有機質肥料を主体とした農薬の使用を極力抑えた栽培を行い、食味と安全性を高めた米づくりを通して、農業所得の向上を図ることを目的とし、昭和61年12月に発足した（組合員数76名）。令和5年1月には、農事組合法人上和田有機米生産組合として法人化されている（組合員数28名）。



豊穡の大地を守る上和田有機米生産組合の仲間達

2 特色ある活動

(1) 環境に配慮した農業実践と安全・安心な美味しい「食」へのこだわり

「化学合成農薬」及び「化学肥料」の不使用による栽培、もしくは極力削減した栽培を行っている。平成12年に有機JAS認証を取得、平成13年には全組合員がエコファーマーの認定を受けた。除草剤を1回だけ使用する栽培などは、特別栽培認証を受けている。また、安心・安全を徹底するだけでなく、食味にもこだわっている。オリジナル有機質肥料とミネラル補給肥料の適正量施肥を栽培の基本としており、数多くの食味コンクールで受賞している。

(2) 有機農業が結び付けた消費者との提携活動

「エスコープ大阪」等の消費者グループとの提携活動は、当組合の設立趣意への共感と協力したいとの思いがベースとなっている。再生可能な販売価格を生産者が提示する考えが消費者と一致し、生産者の課題を消費者が理解した一例になっている。現在も多くの消費者グループ、流通業者の方々との『提携』を通じた生活共同体としての関係を築いている。

(3) 環境教育を通じた地域社会発展への貢献と地域の学校での食育教育の実践

平成元年から「農業体験フィールドワークinたかはた」の受入を開始し、受け入れた大学のゼミは立教大学他、20校にも及んでおり、学生が『いのちのやさしさ』を学ぶ機会を提供している。また、高島町立和田小学校の授業の一環で米づくりの指導を行う等、地域の活性化と地域社会発展への貢献を行っている。

(4) 青年部の結成と次世代に向けた活動の広がり

青年部は、20～40代の生産者で構成され平成24年に組織化されている。米の色彩選別機を導入し、高品質米の生産を担っている他、健康で元気になる農育・食育や体験企画、講演会、研修会などを通じた啓発活動を行い、令和3年度には高島町内の全小中学校において、有機JAS米の給食の日が新たに設けられた。

3 今後の発展方向

当組合では青年部の活動も活発に行われているが、高齢化が進んでおり、農地の集約・維持が今後の課題である。労働力が減少する中、作業の効率化は必要不可欠であり、販売のみならず生産についても組織で取り組むことも視野に入れて、前に進んでいく。そして、これまでと同様に「持続可能な農業・環境に負荷をかけない農業」、『提携』を基本理念として、これから先の50年100年を目指して、先輩方の残してくれた足跡に続き、有機農業運動の新たな歴史を刻んでいきたい。